

# ～ポスト 2015 を見据え、国際貢献を強めよう！～

## 「一目でわかる航空券連帯税資料」の解説

日本では航空券連帯税を導入できる余地は十分にあります。主要国は、様々な空港税を導入していますが、日本では空港利用料金しか徴収していないから、です。

今、世界では貧困等を解消するためのミレニアム開発目標 (MDGs) 達成期限が来年に迫る中で、そのレビューとポスト 2015 アジェンダに向けて議論が高まっ

ています。MDGs は相当の前進があったものの世界ではいぜんとして 12 億人もの人々が絶望的な貧困の中で暮らしています。足りないのは「開発事業を実施するための資金」です。国際貢献のための航空券連帯税が今こそ求められています。

以下、「一目でわかる航空券連帯税資料」の解説を行います。

### ● 「世界主要空港の空港利用料金比較 (国際線：旅客 1 人当たり)」

・特徴：日本の空港は「施設利用料」(成田：2610 円) だけですが、他の主要国では「施設利用料」だけではなく様々な空港税(航空券に上乘せする形で)が徴収されています。ロンドンのヒースロー空港から日本に帰る場合、エコノミー席で 85 ポンド (14,705 円)、ビジネス席以上で 170 ポンド (29,410 円) の「航空旅客税」が課せられます。

ちなみに、パリから帰国する場合は、エコノミー席で 4 ユーロ (556 円)、ビジネス席以上で 40 ユーロ (5,560 円) の「国際連帯税」が課せられます。ドイツからは「航空輸送税」が課せられます。

・棒グラフは「成田国際空港株式会社 2014 年 3 月期 決算説明会」28 ページより  
[http://www.naa.jp/jp/ir/pdf/pdf20140514\\_setsumei.pdf](http://www.naa.jp/jp/ir/pdf/pdf20140514_setsumei.pdf)

### ● 「日本が航空券連帯税を導入した場合の税収シミュレーション」

・2013 年の国際線利用者：出国日本人 1747 万 3 千人、訪日外国人 1036 万 4 千人の合計 2783 万 7 千人 (日本政府観光局 (JNTO) 資料より)

[http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data\\_info\\_listing/pdf/140618\\_monthly.pdf](http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/140618_monthly.pdf)

・座席利用のうちエコノミー座席 85%、ビジネス以上座席 15%として計算。この割合は「JAL 国際線機内座席配置」を参照しました (エコノミー席はほとんど 80%を割っている)ので、座席別徴税の場合税収はこの数字以上のものになる。

<https://www.jal.co.jp/5931/seatmap/seatmap.html>

※なお、これらのシミュレーションは国際線利用者への課税だけで国内線利用者には適用しません。国内線には消費税が課せられていますが、国際線には消費税が課されていない、という理由にもよります。

### ● 「日本人が 2013 年に韓国やフランスに支払った航空券連帯税」

・資料は「2009 年～2013 年 各国・地域別 日本人訪問者数」(日本政府観光局 (JNTO) 資料) より。通貨レートは 2013 年の平均値です。

[http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism\\_data/pdf/marketingdata\\_overseas\\_taraveles140603.pdf](http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/pdf/marketingdata_overseas_taraveles140603.pdf)

【編集責任：国際連帯税フォーラム <http://isl-forum.jp/>】